

技 術 情 報

長崎県病害虫防除所長

令和2年度病害虫発生予察技術情報第6号

いちご（育苗床） ハダニ類の発生状況及び防除対策について

ハダニ類の発生は平年並ですが、育苗床から本圃への持ち込みが懸念されますので、今後も発生状況に注意して防除を徹底してください。

記

1. 発生状況

- ア 8月前期の巡回調査（30筆）の結果、発病株率は9.3%（平年 9.0%）、発生圃場率は50.0%（平年 46.0%）と平年並の発生であったが（図1、2）、一部多発生圃場が認められた。
- イ 気象予報（福岡管区气象台、令和2年8月13日発表）によると、向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

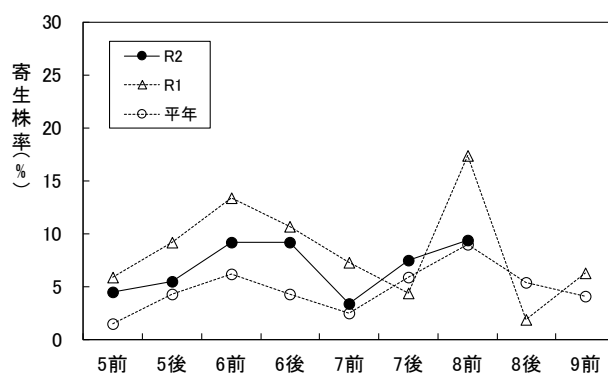


図1 ハダニ類 寄生株率の推移

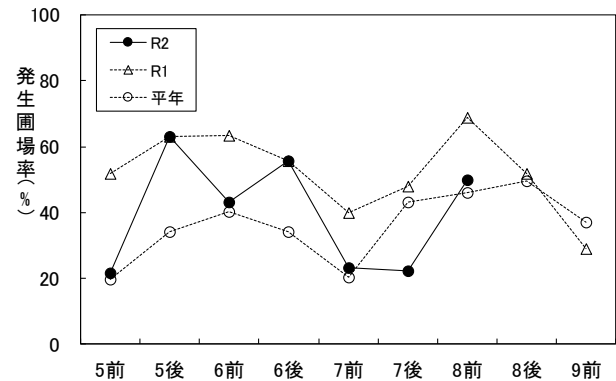


図2 ハダニ類 発生圃場率の推移

2. 防除対策

- (1) 本圃でハダニが多発すると防除が困難になるため、本圃へ持ち込まないように定植前までに防除を徹底する。

株冷・夜冷処理を行う場合は、入庫前後に薬剤防除を徹底する。

【防除例】 ①ゆめのか（株冷・夜冷）の場合

株冷・夜冷入庫1週間前：アバメクチン乳剤（散布）

株冷・夜冷入庫前日：スピロテトラマト水和剤（灌注）

②ゆめのか（普通ポット）又は、恋みのりの場合

定植1週間：アバメクチン乳剤（散布）

定植前日：スピロテトラマト水和剤（灌注）

※アバメクチン乳剤、スピロテトラマト水和剤は薬剤感受性低下を防ぐため、年1回以内の使用に努める。

※スピロテトラマト水和剤は苗が薬液を吸収しないと効果が劣るため、できるだけ鉢土が乾燥している時に灌注する。降雨が続く場合は灌注を控える。

- (2) 下葉の裏に多く寄生するので、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。

- (3) 古葉を摘葉後に防除すると効果的である。摘葉した葉を圃場内に放置すると周辺株へハダニが移動するため、速やかに圃場外に持ち出し密閉処分する。

- (4) 薬剤感受性が低下しやすいので、異なる系統の薬剤（令和2年長崎県病虫害防除基準P214～217の「作用機構による分類（IRAC）」参照）をローテーション散布する。
- (5) 天敵による防除を予定している場合は、薬剤によっては天敵に長期間影響を与えるものがあるので、薬剤の選択と使用時期に注意する。

○6月から8月までの3か月間を「農薬危害防止運動期間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

○長崎県病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病虫害防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病虫害防除所 TEL：0957-26-0027

